

# 開校10周年に向けて

青垣小学校 校長だより  
令和8年3月号  
発行責任者 植木政行

『青垣小学校統合10周年 次の十年へ』

青垣小中学校学校運営協議会 会長 橋本崇史

青垣小学校は、本年四月一日をもちまして統合十年目という大きな節目を迎えます。この十年という歳月を振り返りますと、地域の皆様、歴代校長先生をはじめとする教職員の皆様、そして何より子どもたちの明るい笑顔に支えながら歩んできた道のりであったと、改めて深い感慨を覚えております。

小学校統合に併せて、丹波市内の小中学校に先駆けて導入されたのが「コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）」でした。学校と地域が力を合わせ、地域の声を学校運営に生かしながら、「地域とともにある学校」へと歩みを進める新たな挑戦でありました。私は統合前年、当時の校長であった小田敏治先生からのご依頼により「学校支援コーディネーター」という役割を担うことになりました。当初は一年間だけのお手伝いのつもりでお引き受けいたしました。気がつけば十年余り、この役割に携わらせていただいております。



5年生木エアシスタントティーチャー (R6)



青垣小中学校学校運営協議会 (R1)

依頼を受けた当初、コミュニティ・スクールについての知識はほとんどなく、不安の中での出発でした。しかし平成二十八年、「青垣小中学校学校運営協議会」準備委員会が立ち上がり。地域住民代表の皆様とともに「統合後の青垣小学校の在り方」「どのような児童生徒に育ててほしいか」について熟議を重ねました。世代や立場を越えて交わされた真剣な議論は、まさに地域の未来を語る時間であり、私自身にとっても学びの連続でした。

その熟議の積み重ねの中から生まれた学校目標が、「ふるさと青垣を愛し 自ら学び たくましく生きる 児童生徒の育成」です。この言葉には、青垣の豊かな自然と人の温もりの中で、郷土を誇りに思い、自ら考え行動できる子どもを育てたいという地域の強い願いが込められております。



読み聞かせボランティア (H29)

開校当初は、旧校区ごとに一名の学校支援コーディネーターを配置し、学校と地域を結ぶ体制づくりから始まりました。統合という大きな環境変化に加え、新制度の導入という初めての試みは、教職員にとっても、私たちコーディネーターにとっても手探りの連続でした。そのような中、初代校長の小田先生が「小さく産んで大きく育てましょう」と常に温かく励ましてくださいました。そのお言葉にどれほど救われ、勇気づけられたことでしょうか。焦らず、一つ一つ丁寧に積み重ねてきたことが、今日の土台になっていると感じております。



スクールバス登校指導 (R6)

地域の皆様には、登下校時の見守り活動、本の読み聞かせ、アシスタントティーチャーやゲストティーチャーとしての授業支援など、さまざまな形で学校を支えていただいております。現在では年間延べ三百名を超える方々にご協力をいただいております。子どもたちは多くの大人のまなざしに見守られながら成長しております。ご協力くださる皆様が「子どもたちから元気をもらっている」と笑顔で語ってくださる姿を見るたびに、学校と地域が双方向で支え合う関係が築かれていることを実感いたします。

また、途中には新型コロナウイルス感染症の影響により活動が大きく制限される時期もありました。人と人とのつながりが希薄になりがちなか状況の中で、改めて地域の絆の大切さを痛感いたしました。制限が緩和された後、地域の皆様とともに活動を再開できたときの喜びは、決して忘れることができません。



熟議 (R4)

青垣地域は、市内でも少子化・高齢化が進んでおります。今後、児童生徒数の減少に伴い教職員も減少していくことが見込まれます。そのような状況にあっても、子どもたちの学びの質を守り、将来へつなぐ教育を続けていくためには、これまで以上に地域の力が必要となります。学校だけで完結する教育ではなく、地域全体で子どもを育てるという理念を、今こそ一層大切にしていかなければなりません。

十年は一つの区切りではありますが、決して終着点ではありません。これまで築いてきた信頼と協働の歩みを礎に、次の十年へとつなげていく責任があります。青垣の未来を担う子どもたちのために、これからも「地域とともにある学校」として歩みを続けてまいりたいと存じます。

引き続き、皆様の温かいご理解とご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。



感謝の会 (R7)